

参院選の真ただ中で迎えた7月、ヒートアップですね。寝苦しい毎日が続いているのか、それとも快適な梅雨空を感じさせない日々になっているのか予想は付きませんが、今(6月末)の気持ちとしては、後者を探りたいですね。



世界の大学ランキング(シンガポールでの調査)が公表されました。昨年まで東大が3年間トップでしたが、今年はシンガポール大学や北京大学に負けて、4位まで下がったとのことでした。国内の大学は軒並み順位を下げており、その原因は、資金不足などで十分な研究活動が出来なかったとの結論です。全て財政枠が優先し、一方、それを決める議員様たちの身勝手な政策活動資金などの使用基準のいい加減さ等が、生み出した結果と考えております。前都知事に見られた、思い起こしたくも無いような軽口、せこさ……。まじめに対応している者達が、隔絶された世界での暮らし様のベールを無理やりめくってしまった感じさえております。



経済活動が其の枠に達してないからとの理由で、消費税の2%アップが延期されました。これにより私達の属する医療・福祉分野での、予算の裏付けが無くなってしまったのです。心に残っている国会の議論は、“店先で食べれば表示価格で、持ち帰れば2%安くなる”、“出前してもらおうと、店で食べるより、2%安くなる”と言う軽減税制のやり取りです。



今後、財政当局からの締め付けがこれまで以上に厳しくなることでしょうし、余程の理由が無い限り、診療報酬や介護報酬のアップは考えられない状況です。ただ、指を銜(くわ)えているだけでは仕方ないので、矛盾することになるかとも感じますが、立法を担う部分で力をつけなければなりません。自分達の権益を守るべく働いてくれる議員を増やして、望ましい生活が実現できるように努力しないと明日は開けないこととなります。その意味では、参院選はとても大切な、大きな好期です。職域の力になる候補者を国会に送るように、努力しましょう。

平成 28 年 7 月 院長 清治 邦夫